



～11月25日 指導・助言編～

授業をしてくださった高橋先生、塩田先生をはじめ多くの先生方のご協力があったからこそ、校内研を無事終えることができました。ほんとうにありがとうございました。

さて、みなさんは二人の先生の授業を見て、森本先生の指導助言を聞き、どれほどインプットができたでしょうか。

二人の授業を見て、指導助言を聞くだけでは、理解することがなかなか難しい部分があったかもしれません。僕自身、今までの経験や学んだことと、二人の授業、森本先生の話をつなぎ合わせるのは難しかったです。そこで、僕なりにですが、すこしまとめてみましたのでインプットのための資料として活用してもらえると嬉しいです。

『めあて』について

- ・目標（めあて）には様々なレベルがあり、小さな行動目標から大きな目的まで存在する。
- ・教師と生徒で「目標」の捉え方に差がある。
 - 生徒はObjective（行動目標）として「プリントを解く」など具体的行動を書きがち。
 - 教師はAim/Goalなど、より大きな目標を考えている。
- ・生徒から本質的なゴール設定は出にくいいため、めあての設定は教師が主導した方が効率的で、特に初期段階では教師が方向性を示すべき。
- ・教師側が設定するめあては行動目標となっていけない。

『ふりかえり』について

- ・まとめとふりかえりは分けるべき。
 - まとめは授業の事実確認
 - ふりかえりは個人の学びに関する感想
- ・ふりかえりの書き方に関して学校種や学年によって傾向が分かれる。
 - 小学校：共感・人間性重視の感想文
 - 中学校：教科内容と人間性のはざま
 - 高校・大学：教科内容の理解を重視
- ・ふりかえりは「I（わたし）」を主語にすることが大切
- ・自分の思いを書く際、他者の声や視点・考え方を取り入れることで思考が深まる

※補足説明・・・

⇒下二つの「ふりかえりはわたしを主語」、「自分の思いを書く際」は森本先生の専門「ライティング教育」の考え方が入っています。自分と相手が一方通行ではなく、双方向でコミュニケーションをとることで、より思考が深まる、という考え方です。ただ、対話形式ではコミュニケーションスキルが一定レベル必要であり、小学生や中学生にはそのスキルがない子も多い。だからふりかえりで「授業の中で【〇〇さん】は【〇〇】という考え方を教えてくれたが、それに対して（わたし）は、（〇〇）と思った」というようば自己の振り返りの中で、「I（わたし）」と【相手】の双方向の関係を作ることで、まずは言葉（書くこと）で双方向をつくり、それがいずれ対話形式のコミュニケーションスキルが習得できる。ということです。

まとめたのは、ほんの一部です！

今回、紹介した内容は講演会の一部をまとめたものにすぎません。森本先生が用意してくださった資料は右のQRコードから見ることができます。